



一般に、本尊とはもったも大切に行っている信仰の対象であり、生涯を通して心の依りどころとなってくださる方のことです。仏教では、究極的には、真理そのものが本尊なのでしようが、私たちは具体的なかたちやはたらきを通して真理に触れるわけですから、多くの場合、真理に導いてくださる仏、菩薩が本尊になります。釈迦牟尼仏、薬師仏、観音菩薩などで、密教系の不動明王、日蓮系の題目、真理を絵画化した曼荼羅も本尊として崇められています。

浄土真宗は、すべての人びとをもらさず救おうと大悲のはたらきをかけてくださる阿弥陀仏に、自らをひたすらゆだねていく教えですから、本尊は阿弥陀仏一仏であり、阿弥陀仏の本願のはたらきが詰まった「南無阿弥陀仏」の名号も本尊として仰いでいます。

(イ)の釈迦牟尼仏(お釈迦さま)は、浄土真宗では「阿弥陀仏の救い」を説いて、私たちに勧めてくださる方と見ます。また、(ハ)の観音菩薩は、阿弥陀仏の元で修行されている身(脇侍)で、阿弥陀仏をお手本にされている方です。釈迦牟尼仏、観音菩薩はともに私たちに、阿弥陀仏を本尊と仰ぐように願っておられる方がたと言えるでしょう。

AI.ロ

【検索キーワード】本尊